

マナーを守った節度ある応援について

*競技者必携 2025 より

- 【1】 マナーを守った節度ある応援については、チーム代表者の責任において統制をお願いする。
- 【2】 応援は自チーム全体を励ますのがマナーであることに留意し、対戦相手チームの投手や選手にことさらプレッシャーをかけるような応援は慎む。
- 【3】 懸命なプレイや素晴らしいプレイには、自チーム、相手チームに関係なく、大きな称賛を送る。
- 【4】 応援や演奏が開始できるのは「プレイ」以降であり、鳴り物を使っての応援は自チームの攻撃時のみとする。
- 【5】 応援や演奏の開始は各イニングの先頭打者がアナウンスされてから、もしくは「プレイ」が宣告されてからとし、3アウトになった時点で応援や演奏をやめる。

- ① 試合前のシートノック時やスターティングメンバーのアナウンス時には、太鼓の使用や声援を控える。
(拍手は可)
- ② イニング間は一切の応援をやめ、守備側は座ったまま、拍手のみで応援する。試合が中断（球審の場内放送や選手のケガなど）した場合、応援や演奏は直ちに中止する。
- ③ 試合途中のグラウンド整備中は、応援や演奏を中止して水分補給や休憩に充てる。
※なお、鳴り物の使用を制限している球場では使用できない。

🌀野球にヤジは必要ありません🌀
【ヤジ撲滅運動展開中】

★大人から子どもまで、ヤジの無いクリーンな軟式野球界を目指しましょう。

★軟式野球選手・チーム・審判・大会関係者はみんな仲間です。

“みんなでヤジやめよう ヤジカッコ悪〜い！”

「尊重・勇気・覚悟」を持って取り組みます。

I. 尊重 「プレイヤー（対戦相手/仲間）」「ルール」「審判」を大切に思う気持ちのこと。

さまざまな立場や多様性を理解し許容し、つねにフェアに行動することが大切です。

II. 勇気 勇気とは、困難や危険を恐れない気持ちのこと。自らよく考え、責任をもって

決断し、実践するチャレンジ精神を大切にしましょう。

III. 覚悟 覚悟とは、勝利をめざして全力を尽くす気持ちのこと。困難や苦しみを受け入れ、

あきらめずに愉しみ抜くことが大切です。

*（一社）日本スポーツマンシップ協会

スポーツマンシップの基礎知識ハンドブックより一部抜粋

各会場における応援ルールについて

1. 開会式において、鳴り物による応援は禁止とする。
2. 開会式において、団旗、横断幕、のぼり旗等の掲出は禁止とする。
3. 競技日においては、団旗、横断幕、のぼり旗等の掲出は可能とする。
但し、掲出場所は自チームの応援スタンド側とし、バックネット裏は不可とする。また、施設または大会本部から設置場所の移動を求められた場合は、素直に従うこと。
4. 全会場共通で、ラジカセやCD など(ポータブル含)の音響器具の使用は禁止とする。
5. 各会場の応援ルールについては以下の通りとします。

	鳴り物 (太鼓・楽器)等	メガホン	ペット ボトル	スティック バルーン	日除け テント	ベンチ内扇 風機	団旗・ のぼり等
A: HARD OFF ECO スタジアム新潟	○	○	○	○	○	設置あり 持込み可 コンセント○	○
B: みどりと森 運動公園野球場	○	○	○	○	○	設置あり 持込み可 コンセント○	○
C: 長岡市悠久山球場	○	○	○	○	○	設置あり 持込み可 コンセント○	○
D: 三条パール金属 スタジアム	○	○	○	○	○	設置あり 持込み可 コンセント○	○
E: 見附市運動公園 野球場	○	○	○	○	○	設置あり 持込み可 コンセント○	○
F: 新発田市五十公 野公園野球場	○	○	○	○	○	設置あり 持込み可 コンセント○	○
G: 阿賀野市水原 野球場	○	○	○	○	○	設置なし 持込み可 コンセント○	○

【注意事項】

- ① 各球場において、上記の図の通り、応援ルールの規制はございません。但し、近隣からの苦情等が入った場合には、速やかに中止して頂く場合があります。
- ② 主役は選手(子どもたち)です。同じグラウンド内で必死にプレイしている両チームの選手たちに対して声援や拍手を送るようにしてください。両チームの選手たちが最高のパフォーマンスを発揮できるようなスタンドの雰囲気作りに心がけていただきますようお願い致します。
- ③ 本件については、応援者全員に周知・徹底していただきますようお願い致します。
- ④ 各チームの応援責任者(当日スタンドで統括する保護者等)は、試合前の攻守決定時に、監督・主将と一緒に大会本部に来るようお願い致します。

以上

【グッドマナーアワード（表彰）について】

目的：全国大会出場チーム(選手・指導者・応援者)のマナー向上ならびに、大会に関わる全ての方々へのリスペクト精神の醸成を目的に、他チームの模範となる取り組みを行ったチームに対して表彰する制度とする。

表彰は、試合結果とは別に球場到着から試合前・試合中・試合後の行動や姿勢を大会運営側で評価し、優れたチームに対して表彰を行う。

本表彰をきっかけに、登録チーム全体がグッドマナーに対する意識を高め、各地域において、素晴らしい取り組みを行うチームが増えることを期待し創設する。

対象大会：天皇賜杯大会、全日本学童大会、NPB ガールズトーナメント、全日本中学女子大会、全日本少年大会、全日本少年春季大会

対象：全国大会に出場する全チームを対象とする。

原則、各種大会の試合会場ごとに各1チームを表彰対象とする。

※選考基準に満たない場合は、該当チーム無しとする場合がある。

対象試合：1回戦～3回戦までの試合にて審査を行う。

※2回戦～3回戦で全チームの試合が終了するため、一つの基準として、3回戦が終了してからの審査とする。

選考委員：各会場の大会委員(全軟連派遣役員)が決定し、大会委員長へ報告する。

選考にあたっては、当該試合の球審ならびに会場長からも意見を聴取し、受賞チームを選出すること。

評価基準：「別紙：選考基準の項目」をもとに、点数をつけて評価を行う。

点数が高いチームを表彰対象とする。

なお、3回戦まで複数試合を行う場合は、得点の高い方を優先とする。

評価時の注意点として、対戦しているチーム同士の比較ではなく、評価項目に対して、当該チームのマナーの良さや他チームの模範となるような姿勢や態度で大会に臨んでいるかなどに着目して頂きたい。

発表・表彰：受賞チームの発表は、閉会式の成績発表で行うこととする。

表彰はチーム代表者宛に後日、郵送する。

受賞チームについては、大会終了の報告をHPに掲載する際にチーム名を公表する。

賞品：記念品を授与する。(後日、チーム代表者宛に送付)

以上

高円宮賜杯第 45 回全日本学童軟式野球大会 マクドナルド・トーナメント

アフターマッチファンクション (AMF) 実施要項

目的

野球（スポーツ）では、両チームが全力で戦うことで、勝ちと負けの結果が表れます。喜びと悔しさがチームと選手の成長を促します。学童野球においては、仲間との交流を通じた人間的な成長を重視することが、上達にも効果的であると考えます。共に戦った仲間として、お互いを称え合い、指摘・助言をすることで双方のチーム、選手の意識向上や仲間づくりに有益であり、何よりもスポーツマンシップを理解することが青少年少女の健全育成に有効と考え本プログラムの導入を行います。

アフターマッチファンクション (AMF) について

ラグビーの文化で試合後に行われる交流会です。交流会には、両チームの選手の他、大会関係者、チームスタッフ、審判員などが参加し、選手同士が健闘を称え合い、ねぎらいの言葉を掛けて親睦を深めます。同じ試合を作った仲間として、交流を図り、次の試合や練習に向けたスイッチを入れます。スポーツマンシップ理解や実践にも有効な機会として取り入れられています。

対象試合

- 8月15日(金) 準々決勝 4 試合
HARD OFF ECO スタジアム新潟・新潟市みどり森の運動公園野球場
- 8月16日(土) 準決勝 2 試合
HARD OFF ECO スタジアム新潟
- 8月17日(日) 決勝 1 試合
HARD OFF ECO スタジアム新潟

参加者

- 対戦 2 チームのベンチ入り選手全員（最大 50 名）
 - 監督、コーチも立ち会いは可能とします。（発言はお控えください）
 - 保護者の見学も可能としますが、子ども達の交流の機会という前提をご理解ください。
 - 進行役は、JSPO コーチ 3 資格保有者サポート（1 試合につき、1 名配置）
- * 当該試合審判員 2 名はサポート対応（球審および 1 塁塁審）

会場

- HARD OFF ECO スタジアム新潟および新潟市みどり森の運動公園野球場

形式および内容

- 試合終了後、着替え、水分補給を済ませ、20 分後を目安に AMF 実施会場へ集合（係員が誘導します）
- 進行役の AMF 実施主旨説明
- 対象チームのベンチ入り人数に応じて、5 名～10 名の小グループにて当該試合、相手チーム、その他についてグルーフトークを行いグループ発表
- 両チームの主将による相手チームへの激励挨拶
- 総括として、進行役の挨拶
- 記念撮影 ※全体で計 20 分程度を想定
- 解散

NPB ガールズトーナメントの様子



熱中症対策への取り組み

公益財団法人 全日本軟式野球連盟

1. 対策への取り組み指針

★JSBB 熱中症予防対策ガイドライン(令和 7 年 5 月 1 日)

別紙資料あり

★スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック (日本スポーツ協会)

(公財)日本スポーツ協会ホームページ 「熱中症を防ごう」を参照

<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html>

★環境省熱中症予防情報

<https://www.wbgt.env.go.jp/> ← 環境省 熱中症予防情報サイト

★JSBB 危機管理マニュアル (全日本軟式野球連盟)

<https://jsbb.or.jp/rule/>

2. 競技運営に関する注意事項

★熱中症対策として、保護者 2 名以内がベンチに入ることができる。

3. 大会に関する事項

★JSBB 熱中症予防対策ガイドラインに沿って大会を実施する

4. 周知事項

★監督・主将会議(書面)で周知徹底をはかる。

★選手の健康管理チェックシートの提出。

★オーダー交換時に監督・主将に予防と対策を周知する。

★役員・審判員は常に注意をしながら試合進行にあたる。

★本大会中に、熱中症特別警戒アラートが発表される場合には、試合を中止、中断、時間変更または順延することもある。

熱中症対策について

■熱中症対策（１）

各選手の体調を把握し、寝不足、食欲不振、特に当日食事を摂らない選手がいないように、チーム関係者は特に注意すること。

※健康チェックシートを記入し、試合ごとに大会本部に提出すること。

■熱中症対策（２）

開会式では、各チームのコーチは自チームの最後尾に並ぶこと。

喉が渴いた選手は、適宜、水分補給をして頂いて結構ですので、ペットボトルなどを持参すること。※スポーツ飲料類等の持参は不可とする。

なお、具合が悪くなった選手がいる場合、監督またはコーチが当該の選手に付き添い医務室まで同行すること。

■熱中症対策（３）

熱中症対策として、必要に応じて各会場のベンチ内に電池式の扇風機の持ち込みを認める。

■熱中症対策（４）

ベンチには、熱中症対策スタッフとして保護者２名が入ることができる。

ちなみに、ベンチには選手２５名、監督１名、コーチ２名、代表者、マネージャー、スコアラー、トレーナー（有資格者）各１名と熱中症対策スタッフ２名の最大３４名まで入ることができる。

熱中症対策スタッフには、ＩＤをお渡し致しますので、担当者は試合時に身に付けてベンチに入ること。

■熱中症対策（５）

JSBB 熱中症予防対策ガイドラインに沿って、クーリングブレイクを設ける。

なお、試合中、守備側の時間が長くなった場合（目安２０分程度）、球審は両チームの了承を得た上で、特別にクーリングブレイクを設ける場合がある。

※各会場において、医療従事者を常駐させる。

■熱中症対策（６）

本大会は、熱中症対策として午前中と夕方の２部制で競技日程を組んでいる。

詳細は、競技日程および組み合わせを参照すること。

公益財団法人全日本軟式野球連盟

高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント 選手の体調管理に係る問診票運用基準

1. 目的

選手の健康状態を試合前に確認し、安心・安全な競技を確保する。

2. チーム責任者・保護者の役割

- ・ 試合当日朝に選手の体調確認を行い、問診票に記入・署名。
※問診票は別添の通り(主な内容：体温、体調不良の有無など。)
- ・ 問診票はチーム責任者が全選手分の問診票を回収・確認
- ・ 会場到着後すぐに、大会本部の大会会場責任者に提出。

3. 大会会場責任者の役割

- ・ 担当会場のチームから提出された問診票を取りまとめ、救護担当看護師へ提出。
- ・ 問診票の管理を行い、懸念がある場合は対応を協議。
- ・ 問診票の提出が無いチームに対しての指導。

4. 救護担当看護師の役割

- ・ 提出された問診票をすべて確認。
- ・ 健康状態にリスクがあると判断された選手について以下を実施
 - ① 大会会場責任者への状況報告
 - ② 選手本人への聞き取り確認（必要に応じて保護者同伴）
 - ③ 症状のリスク評価（熱、強い倦怠感など）
 - ④ 試合参加可否の判断またはチーム責任者との協議
 - ⑤ 必要に応じて大会本部へ報告・医療機関との連携

5. 注意事項

- ・ 問診票は毎試合日ごとに提出。
- ・ 保護者・チーム責任者・大会関係者は健康管理体制の徹底に協力する。
- ・ 個人情報大会終了後、速やかに適切な方法で廃棄。
- ・ 救護担当看護師の判断を尊重すること。

令和7年7月吉日

主催：公益財団法人全日本軟式野球連盟

主管：一般社団法人新潟県野球連盟

高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント 選手の体調管理に係る問診票運用基準

1. 目的

選手の健康状態を試合前に確認し、安心・安全な競技を確保する。

2. チーム責任者・保護者の役割

- ・試合当日朝に選手の体調確認を行い、問診票に記入・署名。
※問診票は別添の通り(主な内容：体温、体調不良の有無など。)
- ・問診票はチーム責任者が全選手分の問診票を回収・確認
- ・会場到着後すぐに、大会本部の大会会場責任者に提出。

3. 大会会場責任者の役割

- ・担当会場のチームから提出された問診票を取りまとめ、救護担当看護師へ提出。
- ・問診票の管理を行い、懸念がある場合は対応を協議。
- ・問診票の提出が無いチームに対しての指導。

4. 救護担当看護師の役割

- ・提出された問診票をすべて確認。
- ・健康状態にリスクがあると判断された選手について以下を実施
 - ① 大会会場責任者への状況報告
 - ② 選手本人への聞き取り確認（必要に応じて保護者同伴）
 - ③ 症状のリスク評価（熱、強い倦怠感など）
 - ④ 試合参加可否の判断またはチーム責任者との協議
 - ⑤ 必要に応じて大会本部へ報告・医療機関との連携

5. 注意事項

- ・問診票は毎試合日ごとに提出。
- ・保護者・チーム責任者・大会関係者は健康管理体制の徹底に協力する。
- ・個人情報大会終了後、速やかに適切な方法で廃棄。
- ・救護担当看護師の判断を尊重すること。

令和7年7月吉日

主催：公益財団法人全日本軟式野球連盟

主管：一般社団法人新潟県野球連盟

高円宮賜杯第45回全日本学童軟式野球大会野球問診表

記入日： 西暦 2025 年 8 月 日

【選手情報】

チーム名：

今朝の体温

名前：

年齢：

記入者： 選手本人 ・ 保護者 ・ 指導者(○で囲む)

署名：

※署名は保護者または指導者等の大人が記入

*治療中などの病気やアレルギーはありますか？

☐いいえ ☐はい(具体的に:)

*現在、体調に不安や異常を感じていますか？

☐いいえ ☐はい(具体的に:)

*過去24時間で次の症状はありましたか？

☐いいえ ☐はい(☐発熱 ☐頭痛 ☐筋肉の痛みや倦怠感 ☐食欲不振 ☐下痢嘔吐 ☐その他)

*昨晚の睡眠時間を教えてください

☐6時間未満 ☐6～7時間 ☐8時間以上

No.	質問項目	回答欄	チェックが付いた回答の	点数			
				0	1	2	3
1	過去24時間の体調は良好ですか？	☐ はい（とても元気）	右に0記入				
		☐ 問題なし(いつも通り)	右に1記入				
		☐ 体調に不安がある	右に2記入				
		☐ 悪い	右に3記入				
2	昨日から現在までの水分補給の状況	☐ かなり水分補給に注意している	右に0記入				
		☐ いつも通り	右に1記入				
		☐ やや不足で十分でない	右に2記入				
		☐ 不十分	右に3記入				
3	過去に熱中症にかかったことがありますか？	☐ ない	右に0記入				
		☐ 熱中症になりかけた	右に2記入				
		☐ 熱中症になって運動を中止した	右に3記入				
4	昨夜はよく眠れましたか？	☐ いつもより良く寝た	右に0記入				
		☐ いつも通り睡眠がとれている	右に1記入				
		☐ まあまあの睡眠がとれている	右に2記入				
		☐ 十分な睡眠がとれなかった	右に3記入				
5	朝食は食べましたか？	☐ いつも通り	右に0記入				
		☐ いつもよりやや少なめ	右に1記入				
		☐ いつもの半分以下	右に2記入				
		☐ ほとんど食事がとれていない	右に3記入				
	合計スコアを記入してください			/15			

全軟野連発第 160 号

令和 7 年 7 月 23 日

各種全国大会出場チーム

代 表 者 様

公益財団法人 全日本軟式野球連盟

専務理事 小山吉男

全国大会時のウォーミングアップ時の服装について（通知）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

標記の件につきまして、今夏も全国的に気温が高い状態が続いており、本連盟が 8 月に開催する下記主催 4 大会においても選手の熱中症対策をはじめとする安全対策に万全を期す必要性から、球場内でのウォーミングアップ時の服装を下記の通り取り扱うことといたします。ご確認いただき、チーム内でも情報展開をいただき、必要に応じてご対応をお願いいたします。

以上、何卒よろしくお願いいたします。

記

1. 対象大会

- ・高円宮賜杯第 45 回全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント
- ・第 42 回全日本少年軟式野球大会 ENEOS トーナメント
- ・NPB ガールズトーナメント 2025
- ・第 10 回全日本中学女子軟式野球大会（SP トーナメント）

2. 球場内ウォーミングアップ時の服装について

T シャツ、ハーフパンツの着用を認める。ただし、攻守決定時（第 1 試合は、試合開始 30 分前）までにベンチ入りする全選手がユニフォームの着用（着替え）を完了していること。

*全試合での対応を可とするが、第 2 試合以降は、グラウンドインからシートノックまでの時間が限られているため、十分な配慮をお願いいたします。

*円滑な競技運営のため、選手の着替え等に対しては、指導者から選手への声掛け等をお願いいたします。

*大会形式が異なるため、詳細については監督主将会議時（監督主将会議がない場合資料を配布いたします。）に説明いたします。

以上

事務担当者：井上 03-3404-8831 inoue@jsbb.or.jp

【ユニフォーム着用しての喫煙禁止について】

目 的：ユニフォームは、組織やチームを象徴する服装であり、そのユニフォーム姿で喫煙行動をすることにより、軟式野球はもとよりスポーツ全体のイメージが損なわれる恐れがある。

また、タバコの煙やにおいてはユニフォームに付着するため、周囲に不快な思いをさせることや、受動喫煙による肘肩障害(離断性骨軟骨炎)の発生に影響を与える可能性があることから、ユニフォームを着用しての喫煙を禁止とする。

対象大会：全日本軟式野球連盟主催の全国大会

※都道府県大会および末端支部大会は段階的に導入することを推奨する

対 象 者：全国大会出場チーム(選手・監督・コーチ)でユニフォーム着用者

※成長期の選手に影響を与える、学童・少年の指導者も注意すること

対応方法：喫煙する場合には、ユニフォーム(上下)を脱ぐか、ユニフォーム(上下)が見えないように衣類を着用して喫煙を行うこと。

罰 則：特に罰則等は設けない。

但し、ユニフォーム姿で喫煙者がいた場合、大会本部から注意をする。

それでも改善が見られない場合は、都道府県支部とチーム代表者宛に注意文書を送付する。

そ の 他：全日本軟式野球連盟としての方針について(危機管理マニュアル掲載)

- ・設置された喫煙場所以外の屋内の場所はすべて禁煙エリア。
- ・禁煙エリア内は加熱式たばこの使用も禁止。
- ・違反が発覚された場合は、指導等の実施の上、それにも従わない悪質なケースの場合、勧告・命令などを経て罰則が適用される。
- ・屋外や路上でも、望まない受動喫煙を生じさせないよう喫煙場所の設置への配慮が必要。
- ・喫煙ルールについても、グッドマナーアワードの選考対象の項目となる。

【各種大会実施要項に記載事項】

- ・受動喫煙防止に努め、喫煙可能区域以外での喫煙を厳禁とする。なお、喫煙区域内でも未成年者の前では配慮すること。

以上